

天明校区施設一体型義務教育学校施設整備事業

基本設計概要書

基本設計方針

【設計コンセプト】

「 学びを通して地域がつながる、生涯学習拠点を地域と共に創る 」



【施設のあり方】 本施設の具体的な設計のポイント

1. 天明地区の豊かな景観と調和する新たなシンボル

- ・天明の豊かな田園風景の中、未来を担う子どもたちの成長の場に相応しい「いなほ」と「集い」をモチーフとした新たなシンボルを創る
- ・多様化する学習ニーズに柔軟に対応する、フレキシブルで管理しやすい施設の実現

2. 地域コミュニティに寄り添う、生涯学習の場

- ・安全な学習環境と地域住民が気軽に利用できる利便性を両立する生涯学習拠点の実現
- ・地域に寄り添い愛される施設を実現するため、周辺環境に調和し周囲の住環境を保全するコンパクトな施設の実現

3. 地域の適応力を高める、安全安心の拠り所

- ・高潮などの水害に対する地域の避難施設として求められる機能を確保
- ・大地震や台風、豪雨の際の安全確保と、早期の学校再開を考慮したゾーニングなど、頻発する自然災害を熟慮した施設づくり

建築計画

1.配置計画

【配置・配棟計画】

児童生徒が使いやすく地域とともに共生する施設配置

- 敷地中央、東側に校舎を、西側にグラウンドを配置しその間を南北に結ぶ「スクールストリート」と、敷地南側をグラウンド、自転車置場～サブグラウンドまでをつなぐ通りを設けます。ここは児童生徒のメイン動線となり、スクールストリート中央に昇降口、交差点部分を「学園広場」とし、各施設を最短距離で移動できる計画とします。

近隣への配慮と安心、安全な学習環境を両立

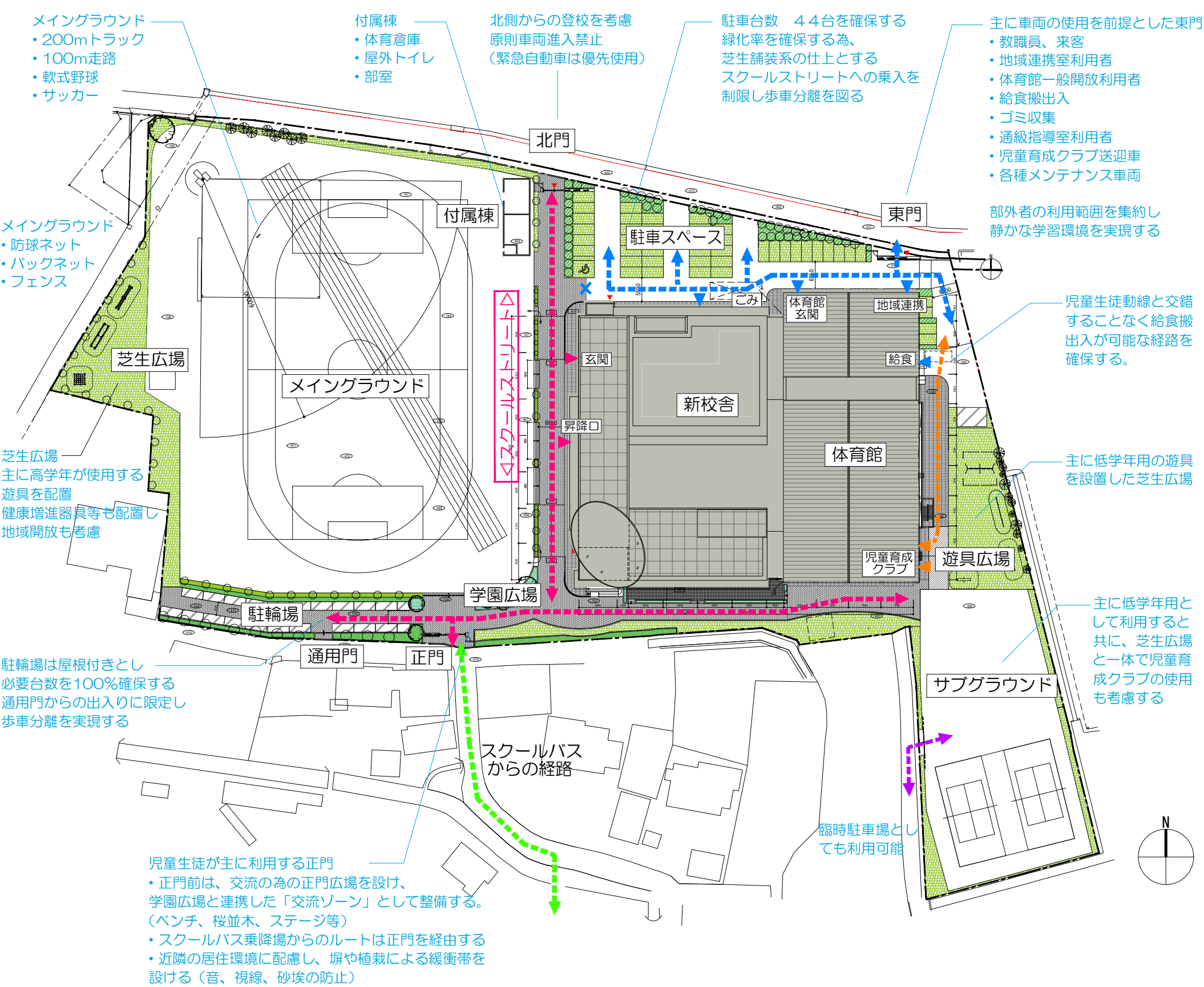
- メイングラウンドは旧校舎解体跡地に配置、サブグラウンドはプール解体跡地として日当たりを確保するとともに、対象となる児童生徒の体格差を考慮して安全に遊べる離れた位置とします。
- 遊具設置位置についても高学年と低学年の住み分けを行い安全性を確保します。
- メイングラウンドの西側と南側は植栽による緩衝帯を確保し近隣に配慮します。
- プールは屋上に設置し、プライバシー確保と移動時間短縮を図ります。

安全性と機能性を高める歩車道分離計画

- 日常の車両出入りは東門に限定し、他の出入り口と明確に区分します。付近に駐車場や給食搬入、ごみ収集の経路を集約します。また児童育成クラブの送迎経路や、通級指導室への直接アプローチ、体育館の休日開放時用の専用玄関や地域連携室玄関などもすべて駐車場からの利便性が確保できる位置とし、安全性と機能性を両立します。
- 駐輪場への出入りは通用口に集約することで、徒歩の児童生徒が使用する北門、正門を結ぶスクールストリートと明確に分離が可能となり、動線交錯を回避した安全な登下校を実現します。

校内の死角を減らす、見守りの計画

- 水害時の被害を鑑みて職員室、校長室などは校舎西側2階に配置する。職員室からは上階からメイングラウンドの見守りが可能なように配慮します
- 校舎1階の北西角には事務室、南西角には保健室を配置し、スクールストリート両端の見守りとして、「大人の目」が途切れないうように配慮します
- 主要な出入口と各グラウンドと広場の死角部は、カメラによる管理を行い、安全性を担保します。



2.平面計画

【1階平面計画】

中庭を中心にした賑わいあふれる回遊型校舎

- 校舎中央に多目的利用できる「みんなのにわ」を設け、昇降口～図書館と一体となった開放的な空間を創ります。
- 中庭に面して設ける大きな開口部を通して上下階のつながりと採光と通風を確保し、明るく風通しの良い校舎とします

ユニット化して積層する通常学級と特別支援学級

- 4教室分のスペースと便所、交流スペース、教材庫を1つの「ユニット」としてとらえ、各階を同じ条件で配置することで、様々な学年区分への対応を可能とします。ユニット内にはインクルーシブの視点に立って特別支援教室や少人数教室を組み込む事も可能です。

昇降口はスクールストリート中央に設け、必要十分な広さを確保。グラウンド側に面しているため入り込む砂に影響されない床仕上げとする

1階床レベルは水害を考慮し現況より0.6～1.2m程度のかさ上げとする

アクセスと見通しの良い南西隅に設け、機能性と安全性に配慮します

建物北西隅に設け、建物周辺駐車スペースから直接利用可能を安全に見守れる配置とする

雨天時も上履きで行けるゴミ置場

学年も親しみやすい「床座」をテーマとします

大きな開口部（折戸）として昇降口～庭～総合図書館までが一体となって繋がり、多彩な交流・賑わいを創出できる空間を創出します

庭に出て読書ができる空間を創ります

「中庭と床座繋がり」をテーマとします

専用庭を設け、多目的に使用できるように

4つの教室（特別支援含む）、男女バリアフリー便所、交流スペース、教材庫を1つの「ユニット」としたものを、極力各階に同じ条件で配置する計画とする

単独利用を可能とする専用玄関と、便所、水廻りを設ける

プラットフォームは屋根をかけ、段差付き、手洗いを設ける

部室は屋外からも使いやすい配置。ピロティを設け多目的に使用できるように配慮する

武道場はフロアレベルを-1500とし天井高確保し、体育館屋根高さを抑える。ビット、ドライエリアで湧水対策と採光通風の確保を行う

広場
低学年用遊具

単独利用可能な専用玄関を設ける

- その他
- 義務教育学校の特徴となる諸室等
- 特別教室
- 管理諸室
- 共用部
- 体育施設
- 廊下
- 階段

セキュリティライン	
屋内運動場/武道場開放時	
地域連携室 開放部分	
屋上プール（有事使用範囲・セキュリティライン設定なし）	
児童育成クラブ（セキュリティライン設定なし）	
特別教室開放対象（セキュリティライン設定なし）	

2.平面計画

【3階平面計画】

特別教室は3階に集約配置

・技術、美術、家庭科、理科を3階に集約して配置。それぞれに展示コーナーやギャラリーを併設したり、屋外授業テラスが設けられたりと、見る、見られる事を意識した造りとして、互いの学習意欲を高める工夫をします。

上級生の利用諸室を集約し、移動時間を短縮します。

・7～9年生は、体育を除きほぼこのフロアで完結できる配置とし、スムーズな教育の展開に配慮します。
・学校開放で特別教室を使わせる場合でも各室が近接し並んでいるため、管理のしやすさにつながります

特別教室に関する作品などの展示が可能なスペースとして。異学年がどんなことを学んでいるか興味を引くように設える。

騒音に配慮し遮音仕様の壁、建具とします

特別教室に関する作品などの展示が可能なスペースとして。異学年がどんなことを学んでいるか興味を引くように設える。

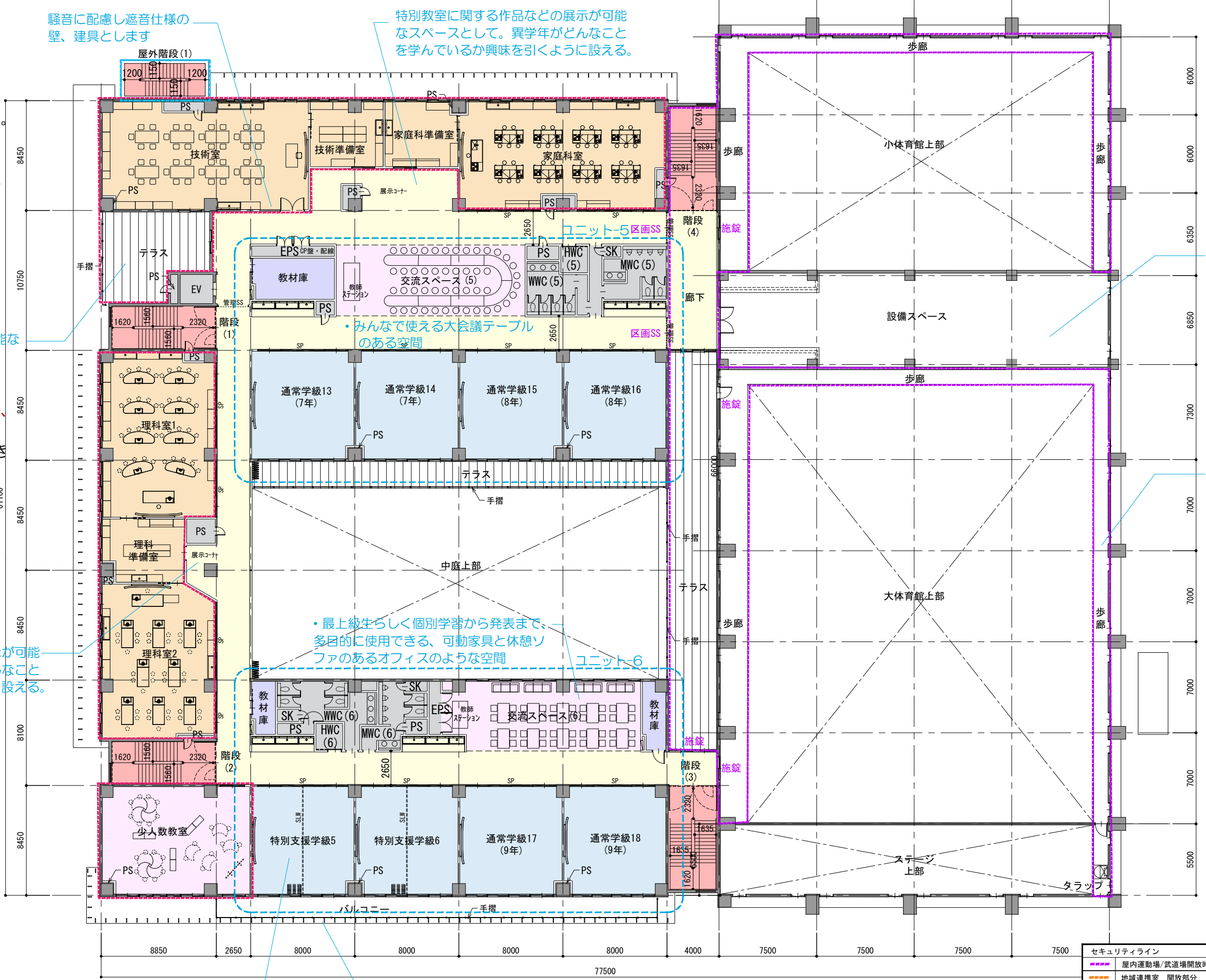
音の出る授業に対応可能なテラスを設ける。

設備機器の高潮（10m）被害を免れる高さに設備スペースを準備

窓のメンテナンス等に使用可能な点検歩廊を3方に設ける。有効幅1m程度。ステージ横にタラップ設置する（日常の使用はしない）

・特別支援教室は通常学級と同じユニット内に配置可能でインクルーシブ教育を実践します

・教室前にバルコニー（庇）とルーバーを設け、日照の制御と通風の確保を図ります



- その他
- 義務教育学校の
特徴となる諸室等
- 特別教室
- 管理諸室
- 共用部
- 体育施設
- 廊下
- 階段

セキュリティライン	
■	屋内運動場/武道場開放時
■	地域連携室 開放部分
■	屋上プール（有事使用範囲・セキュリティライン設定なし）
■	児童育成クラブ（セキュリティライン設定なし）
■	特別教室開放対象（セキュリティライン設定なし）

